A 試合会場レポート

試合番号 **003**　開催日 **2023/05/06**

2023年度 第71回黒鷲旗 全日本男女選抜バレーボール大会 男子　会場： 丸善インテックアリーナ大阪

観客数：	開始時間： 14:00	終了時間： 15:42	試合時間： 01:42	主審： 明井　寿枝	副審： 高橋　宏明

ウルフドッグス名古屋

監　督：ヴァレリオ バルドヴィン
コーチ：藤田 和広

通　算： － 勝　－ 敗
ポイント：　－

サントリーサンバーズ

監　督：山村 宏太
コーチ：カルバリョ レオナルド

通　算： － 勝　－ 敗
ポイント：　－

ウルフドッグス名古屋			サントリーサンバーズ
3	25	第1セット【 00:21 】	16
	28	第2セット【 00:33 】	26
	33	第3セット【 00:42 】	31
		第4セット【　】	
		第5セット【　】	
0			

ポイント　－　　【】内はセット時間　（）内は交代選手　　ポイント　－

第1セット

25	山近 ( )	山田 ( )	山本 ( )	彭 ( )	16
	前田 ( )	クレク ( )	藤中(謙) ( )	アライン ( )	
	高橋 ( )	王 ( )	佐藤 ( )	ムセルスキー ( )	

リベロ：市川　　リベロ：藤中(颯)

第2セット

28	前田 ( )	山近 (椿山)	佐藤 ( )	藤中(謙) ( )	26
	高橋 (勝岡)	山田 ( )	ムセルスキー ( )	山本 (樫村)	
	王 ( )	クレク ( )	アライン ( )	彭 (鍬田)	

リベロ：市川　　リベロ：藤中(颯)

第3セット

33	山近 (椿山)	山田 ( )	山本 (樫村)	彭 (西田)	31
	前田 (小山)	クレク ( )	藤中(謙) ( )	アライン ( )	
	勝岡 (高橋)	王 ( )	佐藤 (鍬田)	ムセルスキー ( )	

リベロ：市川　　リベロ：藤中(颯)

第4セット

	( )	( )	( )	( )	
	( )	( )	( )	( )	
	( )	( )	( )	( )	

リベロ：　　リベロ：

第5セット

	( )	( )	( )	( )	
	( )	( )	( )	( )	
	( )	( )	( )	( )	

リベロ：　　リベロ：

<監督コメント>

日々選手たちは小さな目標をクリアしながら、決して終わることのない努力を重ね、V.leagueからレギュラーを４人も欠く中で、決勝という素晴らしい場所でプレーできたことを誇りに思います。
また、選手、スタッフ、サポートしてくださる全ての皆様と共に仕事ができたことをうれしく思います。試合会場へ足を運んでくださった方々、メディアを通して声援を送ってくださったみなさまのおかげで、いつも全力を尽くすことができています。
長かったようで短い１年間でしたが、本当にありがとうございました。バレーボールには前例のないストーリーが生まれます。多くの方々が「不可能」と思うことを可能にしてきました。それはバレーボールに限らずに、どんな場面でも教訓となるでしょう。今日という日を最後にチームを去るメンバー達にも、必ずこの経験が記憶に強く刻まれたと思います。記念すべき実質的70回目の黒鷲旗バレーの開催おめでとうございました。
Here and Now...　To Be Better Tomorrow.

<監督コメント>

本日もサンバーズへのご声援ありがとうございました。優勝のWD名古屋おめでとうございました。
V.LEAGUE、黒鷲旗ともに同一カードとなりましたが、どちらもストレートでの敗戦となってしまい、非常に悔しいです。
WD名古屋のクレク選手の決定力、そして繋ぐディフェンス力が非常にレベルが高く、優勝にふさわしいチームだと思います。サンバーズは若い選手が多くコートに立っている分、劣勢の場面、プレッシャーのかかったシーンで力を発揮しきれなかったように感じます。この苦しさを忘れず、１年間過ごしたいと思います。
国内での試合は最後となりますが、残されたアジアクラブカップをサンバーズらしく”PLAY HARD”を徹底し、さらに成長できるよう取り組んでいきます。
本日も素晴しい環境で試合ができました。ありがとうございました。

<要約レポート>

奇しくも2022-23V.LEAGUEファイナルと同じくウルフドッグ名古屋とサントリーサンバーズが第71回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会の男子決勝戦で対戦した。
第１セット、WD名古屋はキャプテン・クレクの気迫のこもったアタックやサービスエースで序盤からリードすると、高橋やクレクのブロックでリードを広げ、そのリードを保ってこのセットを先取した。
第２セット、サントリーは調子を上げてきたムセルスキーのアタックなどでリードした。WD名古屋は王のブロックやクレクのサービスエースなど追い上げでると、最後は山田、クレクが連続でアタックを決め、セットを連取した。
第３セット、一進一退の攻防の中、WD名古屋が24―21と先にマッチポイントを迎えた。ここからサントリーが山本の強いサーブで相手の守りを崩し、ムセルスキーの連続アタックポイントでデュースに持ち込んだ。サントリーは藤中(謙)のブロックやムセルスキーのアタックなどでセットポイントを迎えるが、WD名古屋はクレクがアタックを決め続け、33―31でこのセットを取り切った。
WD名古屋は前身の豊田合成トレフェルサの時代も含め、黒鷲旗初優勝を果たし、2022-23V.LEAGUEとの二冠を達成した。

作成者： 山口　岳夫

※本票の著作権は、公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。